

【フロンティアスクール用中間報告書様式】

(都道府県 大阪府)

・ 学校の概要(平成 15 年 4 月現在 実施計画書から転載可)

| 堺市立美木多中学校(フロンティアスクール名) | | | | | | | |
|------------------------|-----|-----|-----|------|-----|-----|--|
| | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 | |
| 学級数 | 6 | 5 | 6 | 1 | 18 | 36 | |
| 児童数 | 208 | 198 | 240 | 5 | 651 | | |

・ 実践研究の概要

1. 主題

「自ら学び、主体的に取り組む授業の創造」

- 基礎基本の確実な定着と個の力を引き出す指導の工夫 -

2. 内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年数学(基礎基本の徹底が図られやすく、そのため生徒にも自信が付きやすい科目である。)

(2) 年次計画

平成 14 年度

○テーマ

習熟度別、課題別等の学級編成や授業法の実践と開発に取り組む。

○研究内容・方法

学年、学期、単元、などにより習熟度別、課題別等の様々な学級編成や授業法を試みる。生徒や保護者のアンケートから生徒がより主体的に取り組めるような授業作りを探る。また、診断テストを実施して基礎基本の定着を図る。

平成 15 年度

○テーマ

個に応じた指導のための教材の開発と、基礎基本の定着を図る。

○研究内容・方法

個に応じた指導形態は、指導の個別化と学習の個性化を視点において取り組む必要がある。そのために習熟度別編成による授業を実施し、生徒一人一人の習熟度や興味・関心に応じた指導を行う。また、基礎基本を定着させるためには、単元によりどのような授業法がより効果的か、様々な教材を開発し、生徒個々が主体的に参加できる授業を進める。

平成 16 年度

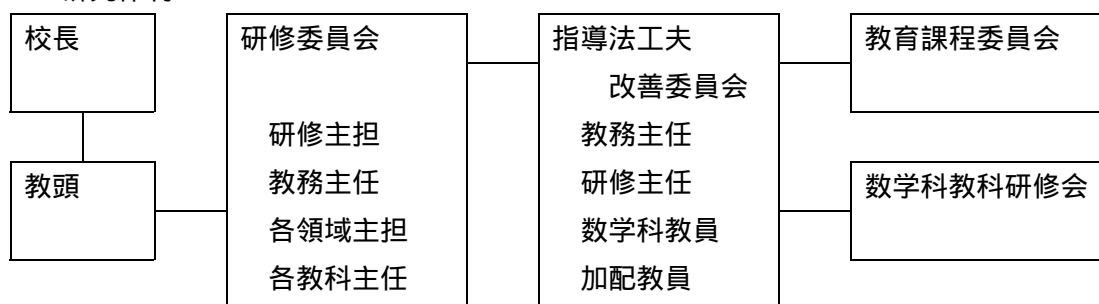
○テーマ

個に応じた授業法・教材を確立し、評価方法について研究する。

○研究内容・方法

2年間の実践をもとに課題を再点検し、個に応じた授業を実践するにはどのような指導法や教材が適切かを検討する。特に習熟度別による編成については、到達度テスト結果をもとにした編成も検討したい。また、診断テスト、自己診断から生徒が自身で評価し、主体的に学習に取り組む姿勢を培う。基礎基本の定着度や意欲関心を適切に評価する方法を検討する。

3. 研究体制



・平成 15 年度の成果および課題

1. 研究の成果

習熟度別編成による授業に取り組んで2年目となり、個に応じた指導（その子がそこで必要とする学習時間と、その子の学習スタイルに応じた学習機会を適切に保障する）を実践することで、理解に時間のかかる生徒が自分のペースで学習できるようになり、興味関心を持って授業に参加するようになった。生徒一人一人にあった学習スタイルを保障したことが、生徒の課題に対して自力で解決しようとする意欲や態度に表れてきた。

< 診断テスト(H13年度から毎年実施)の結果から >

| 問題例 | H13年正答率 | H14年正答率 | H15年正答率 |
|---------------|---------|---------|---------|
| 証明 三角形の合同を使う | 33% | 42% | 51.6% |
| 図形 平行四辺形になる条件 | 15% | 33% | 56.6% |

- ・ 三角形の合同を証明する問題の正答率 51.6%、平行四辺形になる条件を使う問題の正答率 56.6%から見られるように、段階的にステップを踏んで解くような問題に対して成果が大きかった。習熟度別学習指導を進めていく中で、図形分野において基礎基本の確実な定着が図かれている結果であると考えられる。

<1月26日実施の少人数授業アンケートの結果から>

- ・基礎コースを選んだ生徒は、80%弱満足していると感じているのに対して、標準コースでは、58%にとどまっている。希望によるコース選択で生徒間の理解度の差が大きいため、授業の進度が必ずしも満足の得られるものにはなっていないと考えられる。

2. 今後の課題

補充的な学習と学習力を高める指導に取り組む必要がある。

少人数指導に2年間取り組んできて、以前の一斉授業をしていた頃からすれば確かに学力が伸びてきているが、学習内容の定着や学力の伸び率など高まっていかない感がある。さらに効果を上げるには、補充的な学習に取り組んだり、生徒の生活基盤や学習基盤をしっかりと形成する必要がある。補充的な学習では、ドリルを繰り返し演習し自分で考えて解ける力をつける。さらに保護者にも働きかけ、規則正しい生活習慣や宿題や問題集による家庭での学習習慣を身につけ、学習力を高めることが大切であるとする。

・ 学力把握のための学校の取り組みについて

数学科における少人数指導の取組について成果と課題を明らかにし、今後の指導方法の工夫改善に生かすため、2月に学力診断テスト(年1回)を実施した。今年度は、本校独自に問題を作成し、第1～3学年の生徒全員を対象として実施した。

・ フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・ 美木多中学校校区小中連携による「数学科少人数授業の実践報告会」
平成15年6月24日 堺市立美木多中学校
- ・ 学力向上フロンティア事業 泉北地区学力向上推進協議会
平成15年11月12日 和泉市立南池田小学校

次の項目ごとに、該当する個所をチェックすること。(複数チェック可)

| | | | | |
|----------------------|------------|------------|----|-------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | 4～6学級 | | |
| | 7～9学級 | 10～12学級 | | |
| | 13～15学級 | 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導 | T・Tによる指導 | | |
| | その他 | | | |
| 【研究教科】 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 |
| | 外国語 | 音楽 | 美術 | 技術・家庭 |
| | 保健体育 | その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | 有 | 無 | |